様式２　　令和３年度　清瀬市立清瀬中学校　　学校評価表

## 学校教育目標

人間尊重を基本理念に国際的視野にたち平和を愛する社会人の形成をめざして、・正しい判断力と粘りづよい実践力をもった生徒を育てる
・健やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる　　・高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる

## 目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　○生徒にとって楽しく行きがいのある学校　○保護者にとって親しみがあり、地域に根ざした学校　○教職員にとって自己研鑽に励み、協力して進める学校
【目指す児童･生徒像】○正しい判断力と粘りづよい実践力をもった生徒　○健やかな身体と豊かな情操をもった生徒　○高い知性とたくましい創造力をもった生徒
【目指す教師像】　○常に生徒のことを第一に考える教師　○生徒のためという同一の視点に立って協力し、体罰を許さぬ教師　○自己研鑽に励み授業改善に取り組む教師

## 育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動

本校の教育目標に基づき、全中学校教育を通じて中等教育卒業段階における社会人基礎力の育成を目指すという視点から、育成を目指す資質・能力を「前に踏み出す力」、「チームで働く力」、「考え抜く力」（「社会人基礎力」、経済産業省）とし、あらゆる教育活動を通じて育成を図る。また、特別支援学級設置校であることから、インクルーシブ教育の推進を本校の特色ある教育とし、各教科の授業や学校行事、給食、部活動などにおける、特別支援学級と通常学級の生徒との交流及び共同学習を中心的な内容とする。そのために通常学級と特別支援学級の合同学年会をはじめ、体育行事及び文化行事の各委員会において交流及び共同学習を企画し運営する。

## 前年度までの学校経営上の成果と課

育成を目指す資質・能力を「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」として学校の運営を行っている。前年度はコロナ禍のため、運動会や修学旅行、職場体験やスキー移動教室などが中止となり、体験的な学習活動の機会に恵まれなかったが、PTAや学校支援本部の支援により音楽祭（合唱コンクール）を校内で開催することができた。今年度も保護者や地域との連携によって、生徒のいわゆる非認知能力を育成する機会を確保していくことが課題である。

| 柱 | 具体的方策 | 自己評価 評価 取組指標 | 自己評価 評価 成果指標 | 自己評価 課題及び次年度以降の改善方策（案） | 学校関係者評価 学校関係者による「自己評価」についての評価 | | 次年度以降の改善方策 学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 確かな学力の向上 | ・上半期においては、教師がタブレット端末などのICT機器を活用した授業を行い、生徒の主体的な学習を促す。 | 4 | 4 | ・授業の時数を確保するとともに、GIGAスクール構想具現化の一環として、上半期は全ての教員がICTを活用した授業を行った。 | ・適切である。 | ・コロナ禍においても、ICT活用により学びを止めることなくできているのはとても良い。今後も楽しみです。 | ・教職員の熱心な努力によって、オンライン授業を円滑に推進することができた。これからも生徒のために教職員の創意工夫を重ねていく。<br>・学校図書館については、学校図書館経営方針に基づいて計画的に活用することができた。しかし蔵書が古く、新鮮な情報という意味では学校図書館の活用の仕方に限界もある。むしろICT機器の活用も含めた情報センター機能を充実させたい。 |
| | ・下半期においては、生徒がタブレット端末などのICT機器あるいは学校図書館を活用し、探究的な学習活動を行う。 | 4 | 4 | ・全ての教員がICT機器を活用した授業を行い、また全ての生徒がICT機器又は学校図書館を活用して探究的な学習活動を実施した。 | | | |
| 豊かな心の育成 | ・運動会、音楽祭以外に、1年の移動教室等、2年の校外学習及び移動教室等、3年の修学旅行等の体験的な学習を交流学習として実施する。 | 4 | 4 | ・運動会は無観客かつ半日の行事として実施した。2年生の校外学習を半日の行事として実施し、3年生の修学旅行を予定通り実施した。音楽祭は無観客かつ学年ごとの行事として校外のホールで実施した。いずれも生徒の生き生きとした姿が見られた。 | ・適切である。 | ・行事は無観客となりましたが、行うことに意義があると思います。<br>・コロナ禍においても教員は生徒のために多方面に渡り努力をしてくれていたと思っている。 | ・交流学習は、頻度、内容ともに一層拡充させることができたが、個別の指導計画に基づいたより的確な運用を行う必要がある。<br>・今年度は体験的な学習活動を通した「考え抜く力」の育成に重点を置いた。ICTの活用などを通して目標は十分達成されたと判断する。次年度は「前に踏み出す力」の育成に重点を置く。 |
| | ・体験学習のねらいを「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」の育成に置き、生徒の非認知能力を育てる。 | 4 | 4 | ・昨年中止した運動会及び修学旅行を実施することができた。また音楽祭は校外の本格的ホールで実施することができた。コロナ禍ではあるが、生徒にとって他者との関わりを深める上で大変貴重な機会となった。 | | | |
| 健やかな体の育成 | ・生徒の主体的な活動による、新型コロナウイルス感染拡大防止への対応を積極的に展開させる。 | 4 | 4 | ・生徒一人一人の自立ある行動はもちろん、生徒による委員会活動等（特に保健給食委員会）で組織的かつ主体的な活動が見られた。 | ・適切である。 | ・生徒たちも新たな形に対応していこうと頑張ってくれていたと思う。<br>・コロナ禍により黙食をしなければいけない中、今までとは違う形での活動はとても良い。 | ・今年度は保健給食委員会を中心とした生徒集団が積極的な活動を展開した。これを財産として次年度は取り組みの幅を広げていく。 |
| | ・これまで栄養士が行ってきた、献立や食育に関する情報の収集と各学級への提示などを、生徒の活動として取り組ませる。 | 3 | 2 | ・コロナ禍のため外部と連携した体験活動は行えなかったが、学校給食と保健給食委員会とのコラボ企画や、学校給食と学校図書館とのコラボ企画などを行った。 | | | |
| 特別支援教育の充実 | ・外部機関との連携を深め、生徒や保護者を公的な支援から孤立しないようにする。 | 4 | 3 | ・外部機関と連携したケース会議等を全ての学年で行った。特別なケースを除いて、様々なリソースを活用した支援につなげることに成功した。 | ・適切である。 | ・少しずつでも確実に進むことができていると感じている。 | ・SC、SSW、教育相談室、フレンドルーム、子ども家庭支援センター、児童相談所との連携以外にも、様々なアプローチの仕方として「命の教育」の実施について外部機関と連携した。その一環として認知症サポーター養成講座、がん教育、救命救急講習などを継続的に実施している。こういった取り組みを工夫しながら継続していく。 |
| | インクルーシブ教育の一環として、各教科及び行事、部活動等、様々な場面を利用して交流及び共同学習を行う。 | 4 | 4 | ・特別支援学級生徒の状況に応じて通常学級との交流や共同学習を行った。特別支援学級、通常学級双方の生徒の学習に対する動機付けやその後の転級などにも役立てることができた。 | | | |
| 本校の特色 | ・学校行事や体験学習における保護者との協働を推進する。 | 4 | 4 | ・コロナ禍のため、様々な行事が中止となる中、どうしても保護者、地域の方との接点が薄くなりがちだが、運動会や音楽祭には、PTA役員、委員の皆様に運営に加わっていただいた。また学校支援本部の皆様には、行事における動画撮影の企画を立ち上げ推進していただいた。 | ・適切である。 | ・保護者の方が足を運ぶ機会が少なくなっている中、協力しながらできる範囲でできていて良い。<br>・今後もできることの方法を考え歩んで行けたらと思う。 | ・学校関係者から「今まで出来ていたのに出来ない状況でもコンパクトにすれば、何かを足せば、人手があれば、出来ることもあるかと。いつでも、小さなことでも遠慮なく発信してください」と勇気づけられるお言葉をいただいた。引き続き、保護者、地域と協働する機会を維持し、拡充していく。 |
| | ・PTAや学校支援本部が参画し、協働する取組を実施する。 | 4 | 4 | ・上記以外にも、入学式や様々な学年行事にPTAや学校支援本部のご協力をいただいた。特に今年度は、セーフティ教室や英検、漢検のように企画段階から学校支援本部に進めていただいた取り組みがあった。 | | | |